

優秀賞

ささいなことから出来ること

浦和実業学園中学校 一年 初鹿 杏奈

約290リットル。この数字は、一人あたりの一日の生活に必要な水の量だそうです。2リットルのペットボトルに置き換えると、145本分の水を使っていることになります。

水は地球の表面の約70パーセントを覆っています。それだけを見ると、とてもたくさん水があるように思えてしまいます。しかし、地球上の水の多くは海水なのです。南極や北極には凍ったままの水もありますが、私達が生活に利用出来る水は、地球上にある水の体積のうちのほんのわずか、約0.8パーセントだと聞きました。

私達は食べ物や飲み物から水を取るだけでなく、生活するためにもたくさん水を使っています。お風呂やトイレ、台所や洗たく、洗顔などです。地球上の人が、それだけたくさん水を、大切にすることなく使い続けたらどうなるでしょうか。

ユニセフによると、水不足で苦しむ人は現在21億人ちかく(世界人口の約10人に3人)が安全な水を自宅で入手できていないそうです。その上、世界の人口は増え続けると予想されています。ということは、その分水が必要になるということ、つまり今以上の水不足に陥る未来があるかもしれないのです。

日本では蛇口をひねるときれいな水が出ることがあたり前になっていますが、そんな国は世界でも有数だそうです。世界では多くの人々が安全な水が確保できない生活を強いられているところがたくさんあって、発展途上国だけでなく先進国だって何十年後かは水不足となる可能性があるのだと気づきました。

最近よく、スーパーなどで、フードロスという言葉を目にするようになり

ました。一日一人当たり、おにぎり一個分のロスが出ている、食べ物を無駄にすることなく大事にしよう、という取り組みでした。食べ物のロスは目に見えやすいけれど、水にもロスがある、ということのを忘れがちだったかもしれない、と思いました。

そこで、私達が水を大切にするために出来ることは何かを考え、実行してみました。

まず、歯をみがく間は水道を止めて、うがいはコップですることにしました。歯みがきのときに水を流しっぱなしにすると、一分間でバケツ一杯分も流すことになると思いました。お米のとぎ汁はそのまま流してしまうと水の汚染の原因になりますが、大根を煮る時に使うと味がよく染み込むのだと母に教えてもらいました。また、お皿の汚れも、とぎ汁で落とすことができるそうです。汚染の原因になる油を、同じく汚染の原因になるとぎ汁がきれいにするなんて面白いと思いました。次に、おふろの残り湯は再利用するようにしました。お風呂の浴そうをいっぱいにするためには、バケツに50から70杯の水が使われていることを考えたら、簡単に流してしまうのはもったいないからです。ほかに、洗車はバケツでする、食器や野菜は溜め洗いする、こまめに水量の調節をするなどを現在、日常の中で気をつけてみています。

私が考え、実行したこれらのことは、日常で出来るほんのささいなことです。でも普段そんなささいなことを忘れがちでした。日常のささいな積み重ねが地球を傷つけもしてききましたが、反対に助ける積み重ねにすることも出来るかもしれません。それなら私は助ける積み重ねをしていきたいと考えました。

今回、水不足、そして水ロスからの視点で水について考えましたが、一方で、大雨による被害や洪水も、近年になって各地で頻発していることも気になる場所です。

水は限りある資源です。そして私達はその水で生かされています。ひとり

ができることは小さいな小さなことかもしれませんが、それをみんなが行えば、きっとおおきな動きになると信じています。

このかけがえのない地球で生物が生き続けていくために、これからも自分ができることから、少しずつでも工夫していききたいです。